

開催等についても現在検討を重ねているところである。

「SLキニューロク館」のPRについては、栃木県補助金である地方分権振興交付金市町村交付金を活用したPR用チラシを作成し、井頭マラソンの際に参加者等へ配布した。今後はポスターなども作成し、東京日本橋及びスカイツリータウンの「とちまるショップ」での観光物産展において、積極的にPRしたいと考えている。また、第三セクター鉄道等協議会にパンフレット等を送付し、全国各地でのPRを依頼したいと考えている。

市民目線を反映した市庁舎建て替えを

大根田(悦) 議員 市庁舎の建て替えの際には、移転するのか、移転する場合、その跡地はどのような活用を考えているのか。また、庁舎の建て替えを行う場合には、単独で建てるのか、複合施設も考えているのか伺いたい。庁舎建設については、市民目線、

市民からの意見を募るなど、ワークショップ、話し合いが重要視されている。小山市では建設地や規模の調査に先立ち、小山高専など三校の建築系学科がワークショップを開き、新庁舎を核とする複合施設の案を発表したとのことである。佐野市においては、新庁舎建設で設計に市民の目線を反映させる市民ワークショップを始めたとのことで、市民劇場や市庁舎一階ロビーに庭などを盛り込んでいる。市議会からは多くの市民が賛成するよう計画に時間をかけるべきだとの声が上がっている。

市長 市庁舎建設については、建設場所を含め、引き続き、庁舎建設検討委員会において検討を進めさせているところでもあり、施設の内容などについても、検討委員会で検討しているところである。

各小中学校へ専任司書の配置を

中村議員 芳賀町では、平成十五年度から逐次、各小中学校へ専任司書を配置している。現在では、

小学生が一年間に学校図書館で借りる本の冊数は、一人平均八十冊を超えるほどであり、司書配置の効果は大きいものがある。

本市教育委員会では、読む力を通して確かな学力を身につけることを重点課題としている。本市としても、各小中学校へ専任司書を配置すべきと考えるが、

教育長 もとより読書活動は、児童生徒の想像力と学習に対する興味・関心等呼び起こすとともに、言語に関する能力を育成するうえで大切な活動である。

各学校では、司書教諭を中心に図書整備や読書指導に当たるとともに、保護者や地域ボランティアの協力により、読み聞かせや本の整理、室内の飾りつけなど学校図書館の充実に努めてきた。

本市教育委員会としては、学校教育の重要な施設である学校図書館をさらに充実させるため、専任司書の配置も含めた方策について検討を進めている。具体的には、専任司書を配置し読書の楽しさを児童生徒に発信することにより、読書量が増加するという読書センタートとしての機能だけでなく、授業や調べ学習において、資料の探し方を指導でき、児童生徒自らが

学ぶ力や情報収集、収集した情報を選択できる学習情報センタートとしての機能が活用でき、児童生徒や教員も利用しなくなるような学校図書館を目指していきたい。

県内スポーツチームとの連携を

中村議員 栃木SCとの連携事業は、地元チームへの支援だけでなく、本市にとっても絶好のPRの場であり、子ども達の健全育成の観点からも大きな効果がある。

今後より密接な連携を図るうえで、来年度以降、どのように取組んでいくのか。また、栃木SC以外

のプロスポーツチームや市内社会人チーム等との連携について、どのように考えているのか。

市長 栃木SCとの連携事業については、平成二十年度からサッカー教室や真岡市民デーを開催しており、大変好評を得ている。

今年の市民デーでは、せんだん幼稚園の和太鼓演奏のほか、栃木SCの上野優作ヘッドコーチによる真岡市観光地レポートの掲示等PRを行った。また、市民デーは絶好のPRの場となっており、今年もあいさつの中で、コットベリートともに「日本のいちご」木綿のふるさと「SLと温泉のまち」をPRしたところである。来年度以降も継続して開催する計画であり、エスコートキッズや本市の地域芸能の披露等も栃木SC事務局と協議検討していく。

栃木SC以外のプロスポーツチームとの連携については、本市の競技人口や各競技会場の規模等、課題もあるので、栃木SCとの連携のような形態を組むのは難しいと考えている。なお、市内には社会人チームのホンダソフトボールクラブ等もあるので、市として連携が可能かどうか調査していく。



真岡市民デーであいさつする真岡市長